



全国調査の結果を今後の授業改善に向けた取組につなげましょう

今年度実施された全国学力・学習状況調査において、佐賀県で課題がみられた問題を紹介します。各学校の分析結果と比較検討し、今後の学習指導の改善・充実に向けた取組につなげていきましょう。



国語の“つまずき”はココ！

※掲載している調査問題は、国立教育政策研究所のウェブページから引用しています。

【小学校国語】

※全国：全国(公立)の割合(%)

設問番号	出題の趣旨(評価の観点)	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
2二	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる(思考・判断・表現)	選択式	64.3	67.3	0.9	1.4

二 相田さんは、「資料1」と「資料2」を読んで分かったことをメモにまとめています。次の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【相田さんのメモ】

◇持久力を高める運動
たくさんの酸素を取り入れながら続ける
・軽いジョギング
・縄とび(続けてとぶ)

◇体のやわらかさを高める運動
しゅん関的に大きな力を出す
・うで立てふせ

◇持久力を高める運動
たくさんの酸素を取り入れながら続ける
・ふっくん運動
・うで立てふせ

◇持久力を高める運動
しゅん関的に大きな力を出す
・うで立てふせ

◇体のやわらかさを高める運動
しゅん関的に大きな力を出す
・うで立てふせ

◇持久力を高める運動
たくさんの酸素を取り入れながら続ける
・ふっくん運動
・うで立てふせ

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくる！

運動には、筋力や持久力を高めるほかに、病気のリスクを減らす効果もあります。また、運動によって気持ちリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするの？

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休みの日の散歩、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例

主に筋力を高める運動の例

軽いジョギング 縄とび(続けてとぶ) 腹筋運動 両立てふせ

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だとされています。私たちが日ごと行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、定期的に大きな力を出すことで筋力の高める運動などです。

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

② 相田さんの考え

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。

相田さん

解答類型	反応率(%)		正答
	佐賀県	全国	
1	1と解答しているもの	5.0	4.6
2	2と解答しているもの	7.3	6.3
3	3と解答しているもの	64.3	67.4 ◎
4	4と解答しているもの	22.4	20.1
99	上記以外の解答	0.1	0.1
0	無解答	0.9	1.4

★指導のポイント例★

読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、必要な情報を見付け、その関係を考えられるようにすることが大切です。

文章や図表などで使われている語句で、共通して使われている語句や、似たような意味をもつ語句に着目できるように、線を引しながら読むことなどを指導していきましょう。

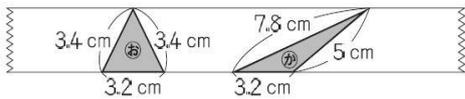


算数・数学の“つまずき”はココ！

【小学校算数】

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
2(4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる（思考・判断・表現）	記述式	15.6	20.8	3.9	4.0

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

★指導のポイント例★

面積が等しく、形が異なる複数の三角形の面積について、実際に計算で面積を求めることで、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなることを理解できるようにすることが大切です。

図形の面積を求めようとするとき、テープの幅はどこも同じであるという書かれていない事柄を含め、どの部分の長さが必要であるかという情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めることができるようにする活動を設定するようにしましょう。

※解答類型：一部省略

解答類型		反応率(%)		正答	
		佐賀県	全国		
(正答の条件) 番号を3と選び、次の①、②の全てを書いている。 ①三角形(お)と三角形(か)の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数 ②三角形(お)と三角形(か)の高さが等しいことを表す言葉					
1	3と解答しているもの	①、②の全てを書いているもの	15.6	20.8	◎
2		①を書いているもの	3.0	3.8	
3		②を書いているもの	4.1	5.6	
4		類型1から類型3以外の解答、無解答	6.3	7.1	
6	1と解答しているもの	①を書いているもの	0.6	0.3	
8		類型5から類型7以外の解答、無解答	4.9	5.3	
14	2と解答しているもの	三辺の長さの積を求めようとしているもの	5.2	3.6	
15		三角形の周りの長さを求めようとしているもの	4.6	3.7	
16		類型9から類型15以外の解答、無解答	9.6	10.0	
23	4と解答しているもの	高さについて具体的な長さが示されていないことを書いているもの	20.0	16.8	
24		類型17から類型23以外の解答、無解答	9.4	8.8	
99	上記以外の解答		5.5	4.6	
0	無解答		3.9	4.0	

【中学校数学】

設問番号	出題の趣旨(評価の観点)	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
9(1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる(思考・判断・表現)	記述式	24.1	32.1	28.8	24.7

9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

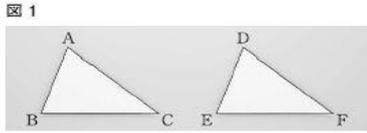
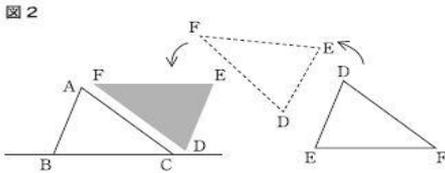


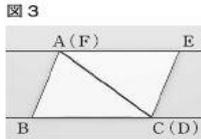
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 F を点 A に、点 D を点 C に重ねる。



◇ 図3のように、点 A と点 F が重なった点を A として、直線 AE をひく。また、点 C と点 D が重なった点を C とする。



優奈さんは、方法1の直線 BC と直線 AE 、方法2の直線 BC と直線 AF がそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線 BC と直線 AE が平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

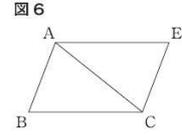


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

※解答類型：一部省略

解答類型	反応率(%)		正答
	佐賀県	全国	
(正答の条件) 次の(a)、(b)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。 なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記載されている程度のものとする。 (a) $\angle BCA = \angle EAC$ (b) $BC \parallel AE$			
1 (a)、(b)とそれぞれの根拠について記述しているもの	12.8	19.0	◎
2 (a)、(b)について記述しているが、表現が十分でないもの	9.3	10.1	○
3 上記1、2以外で、 $BC \parallel AE$ になる理由を正しく証明しているもの	1.2	1.7	◎
5 (a)、(b)について記述しているが、証明に誤りを含んでいるもの	2.7	3.3	
6 (a)のみを記述しているもの	2.2	1.9	
8 (b)のみを記述しているもの	21.6	19.6	
9 上記8について、証明に誤りを含んでいるもの	5.3	5.6	
99 上記以外の解答	14.8	12.3	
0 無解答	28.8	24.7	

★指導のポイント例★
2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるとといった構想を立てるなど、手順をていねいに確認することが大切です。



英語の“つまずき”はココ！

【中学校英語】

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
9(1)②	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる（知識・技能）	短答式	13.9	20.9	12.8	10.9

9

(1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば（ ）内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <友達同士の会話>

A : I called you at eight last night.

B : Oh, sorry. I (do) my homework then.

[答え] was doing

② <友達同士の会話>

A : Oh, you have a new watch!

B : Yes, I got it yesterday.

A : (buy) the watch?

B : At a department store near the station.

★指導のポイント例★

文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりすることが大切です。

疑問文にする根拠は何か、疑問詞の選択は何を根拠にするか、2人称単数、過去形とする根拠は何かなど、着目すべきポイントを考えさせたり、ペアでチェックし合ったりすることで文法事項の定着を図ることができるようにしていきましょう。

	解答類型	反応率(%)		正答
		佐賀県	全国	
1	疑問詞 where を用いて一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書いているもの	13.6	20.2	◎
2	疑問詞 where を用いて一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの	0.3	0.7	
3	疑問詞 where を用いて一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を書いているが、誤りがあるもの	0.9	1.3	
4	疑問詞 where を用いているが、一般動詞の2人称単数過去形以外の疑問文を書いているもの	31.4	30.1	
5	類型4までとは異なる疑問文を書いているもの	12.6	10.3	
6	疑問文を書いていないもの	26.2	25.0	
99	上記以外の解答	2.2	1.6	
0	無解答	12.8	10.9	



インフォメーション

国立教育政策研究所のウェブページには、**令和5年度全国学力・学習状況調査の「解説資料」「報告書」**が掲載されています。

学校の実態に応じて、日々の授業や研修会など、様々な場面で活用し、児童生徒の学習状況の改善につなげましょう！



「令和5年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果と指導改善のポイント」について

現在、「令和5年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果と指導改善のポイント」をオンデマンドで配信しています。

これは、今年度の全国学力・学習状況調査と佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を一体的に分析し、本県における各教科の調査結果、課題が見られた設問における指導改善のポイントや具体的な指導場面例等を紹介したものです。まだ視聴していない学校においては、校内研修で視聴する等、全職員による共通理解を図り、今後の学習指導の改善・充実を図る際の参考として御活用ください。

【配信期間】 令和5年9月中旬～令和5年11月10日（金）

【内 容】 小学校国語科、小学校算数科

中学校国語科、中学校数学科、中学校英語

※詳細については、各学校に送付しています文書を御覧ください。

（参照：令和5年9月14日付け教委学第1775号、令和5年9月22日事務連絡）

各学校の結果分析とあわせて御活用ください！



令和5年度 佐賀県学力向上対策検証・改善委員会 における主な意見

県教育委員会では、学力向上に係る検証改善サイクルの確立の要として、大学関係者、有識者、保護者代表者、市町教育委員会代表者、学校教育関係者で構成する「佐賀県学力向上対策検証・改善委員会」を設置して、全国調査や県調査の結果分析を通じた課題の抽出、指導方法等の検証・改善に向けた協議を行っています。令和5年8月28日に開催した第1回委員会における主な意見を紹介します。

- 佐賀県教育の合言葉「ほめるから、はじめる。はじまる」の実践にあたっては、子供の努力を評価する取組を学校や家庭だけで実践するのではなく、地域の協力も大切になってくる。地域の人たちもその理念を理解し、子供たちを認めほめてほしい。
- 授業において、今学んでいる学習内容から、「昨年の学習内容」や「家庭学習の内容」など、これまでの学習や経験を想起させ、学びの「連続性」を子どもが実感できるようにする。
- 教師は、子供が家庭学習を「やる意味」を見出せるように、学校の授業と家庭学習とのつながりを更に深く考えることが必要である。
- 子供が家庭学習を取り組んでみたくなる工夫をする。
- 先生方は家庭学習の目的や方法等を子供たちにしっかりと伝えていく必要がある。
- 生成 AI の急速な進化が気になる。自分で考え、答えを出す、そのようなことを実感する経験や学びがないと、安易に生成 AI に頼ろうとし、学ぶ意味や意義をもてないのではないか。
- 学校の宿題は、その質と量が果たして学力向上につながっているのか、検討が必要ではないか。
- 学力向上の取組は、時間は掛かるかもしれないが、継続していくことで、改善していくのではないかと期待している。

